

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
よく考え、工夫する子ども 人やものにやさしい子ども 進んで取り組み、やりぬく子ども	笑顔あふれる 中塩田の子 ～一人になれる 一つになれる～			後期、感染予防対策を実施しながら行ってきた学校行事や体力向上への取り組み・委員会活動などは、児童の生活にメリハリをつけ児童の頑張りや粘り強く取り組む姿につながってきた。また、UD化を意識した授業づくりが、児童が分かりやすいと感じる授業につながってきた。挨拶は、コロナ禍のマスク越しにある児童の心の不安と向き合いながらコミュニケーションの第一歩として、来年度も大切にあっていきたい。感染予防対策をとりながら子どもたちの教育活動の場としてできることを検討・実施し学校教育目標の達成に近づけるようにしていきたい。						
	今年度の重点目標			成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
	①	よく聴いて、自分の考えを書ける子(振り返り・ノート)		時間を確保することで、自分の言葉で記入できる児童が増えてきている。		○				書くことに苦手意識がある児童もいるので、書くことだけに限らず表現できることを大切にしていこう。
	②	自分から挨拶し、相手を大切にできる子(温かい言葉・思いやり)		児童会の活動として、挨拶運動に取り組んだことが子どもたちの挨拶向上につながる姿が見られた。検温表確認の際、児童一人ひとりに挨拶を積極的に行うことができた。				○		マスクをしている中でも心地よい挨拶が交わされるように温かい声かけを継続していく。
③	活動や作業に一人でもコツコツ取り組む子(黙々活動)		一人ひとりに具体的な作業の見通しを持たせたことで達成感や成就感につながった。		○				より手順を明確にし活動に打ち込める環境を整える。良い事例を全校で共有していく。	

領域	対象	評価の観点		成果と課題					改善策・向上策						
重点目標	①	A	わかりやすい板書	「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置付け、一時間の授業の流れが分かる板書を心がけているか。	構造的な板書を心がけ、適切な見本や図示を活用することで児童が分かりやすいと感じる授業になってきている。					○				今後も分かりやすさに注意しながら、構造的な板書を心がけ分かりやすい授業になるようにしていく。	
		B	振り返りの時間の確保	1時間で学べた内容や学び方を振り返る時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	時間を確保することで振り返りが書ける児童が増えてきている。学習の定着問題にかかる時間と振り返りの時間のバランスが課題。						○			振り返りや学習したことを共有できる時間を意図的に設ける授業展開を1時間の授業や単元の中に位置付けていく。	
		C	家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭と連携した家庭学習の充実を努めているか。	学年差、個人差はあるが、保護者の協力もあり家庭学習や自主学習が充実してきている。							○			「家庭学習の手引き」の活用方法や家庭学習について保護者と連携して取り組んでいく必要性がある。
	②	D	楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切に、児童会と連携して安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	児童会の「あいさつびがいちゃん」の活動で、挨拶への意識が高まる姿があった。時間を意識して活動に取り組むメリハリをつける姿が見られた。							○			できているよさを広めながら、指導が必要な時は、全校で粘りつよく丁寧に声かけしていく。安全な廊下歩行・場に応じて挨拶できる児童を育てていく。
		E	異年齢の友だちとの活動	なかよしタイム、なかよし読書などの異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせできた。										感染拡大レベルに応じた学校の活動指標を作成してきた。活動ができるレベルの時には積極的に交流を実施できるようにしていく。
		F	交流活動の充実	地域の方々や園児・福祉施設の方々との交流活動に児童が楽しんで関わり合えるよう取り組んだか。	コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせできた。										感染拡大レベルに応じた学校の活動指標を作成してきた。活動ができるレベルの時には積極的に交流を実施できるようにしていく。
	③	G	よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	子どもたちに考える場面を設け投げかけることで、子どもたちの自立を促し自信をもって行動できるようになってきた。							○			考えて取り組めたよさを実感できるよう、子どもたちの様子を丁寧にとらえ、子どもたちに返していける指導を継続していく。
		H	体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳びを取り上げ、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	マラソン月間や身体みがきの時間を設けながら児童の取り組みを促す中で、継続的に取り組める児童の姿が見られた。							○			年間を通して、運動に取り組めるような活動や、成果を実感できるカードなどを検討し、子どもたちの体力向上に活かしたい。
		I	仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花作り等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	清掃や学級での活動だけでなく、後期は感染レベルに応じて児童会の当番活動も実施できるようになり、責任を果たそうと取り組む姿が見られた。							○			児童の頑張る姿を認め次への意欲につなげていけるように、担当職員が見届けをきちんと行い、継続した声かけを行っていく。
学校運営	地域連携との	J	学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	チャレンジタイムで学習ボランティアの方に入っていたことで、意欲的に学習を進めている姿が見られる。地域ボランティアの活動は、見合わせるが多かった。							○		感染拡大レベルに応じて、学習面以外でも地域の人材を活用して子どもたちの意欲を高めていきたい。	
		K	授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができたか。	視覚的・具体的・肯定的な取り組みの中で、授業が分かりやすいと感じる児童が増えた。							○		ユニバーサルデザイン化の実践の中から得られたことを職員間で共有しながらよりよい学習指導について研修を深めていく。	
	生徒指導	L	職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にするために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	授業実践をまとめた通信により職員間で情報共有することができた。しかし、互いの授業を参観して学ぶ時間を生み出すことが難しい。							○		互いの授業を参観しての学びは、必要に応じて柔軟に授業を見合うことができる体制を組むなど検討していく。	
		M	いじめへの対処	いじめを防止し、いじめが起きた際、適切に対処することができているか。	情報を得た時点で、関係職員間で連携して対応することが継続して行えた。日常生活の様子、アンケートやつむぐから子どもたちの思いをより丁寧に受け止めていく必要がある。							○		日々の生活の中での児童との関係づくりを大切にし、児童に寄り添って問題意識を共有していく。	